

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2014年2月6日

[テーマ] 防犯防災 万全な点検を

統計データには、増えたり上昇すると良くなった、改善したとされるものが多い。とくに経済統計には、増加や上昇が成長に結びつくと思われる様々なデータがある。ところが、減ったり下落すると改善したとされる統計データもある。犯罪や災害、倒産や失業などが典型的な例だろう。

県内の犯罪は減少傾向だ。刑法犯認知件数は、2005年以降9年連続で減少し、13年（1万8820件）には近年のピークである04年（4万2643件）の半分以下まで減少した。人々の警戒感の高まりも犯罪防止に役立っているのだろうが、全国平均よりも高い検挙率にみられるように、警察当局による犯罪抑止の取り組みが功を奏していると言えるだろう。

◆ 県内の犯罪、火災発生状況

	2011年	12年	13年
刑法犯認知件数	2万981	2万330	1万8820
刑法犯検挙率（%）	43.4	45.6	43.5
振り込め詐欺認知件数	78	56	128
出火件数	936	864	825
出火率	4.68	4.34	4.08

(注) 13年の出火件数は1～9月の累計。出火率は人口1万人当たりの出火件数

(出所) 県警、総務省消防庁

ただ、最近では高齢者を狙った振り込め詐欺が増えており、被害額も大幅に増加している。手口の巧妙化も進んでいるので、警察当局の配布資料（県警本部の「詐欺に効く薬」など）をよく読んで、冷静な対応を心がける必要があるだろう。

一方、県内の災害については、残念ながら減少していない。地震や台風などの自然災害は、恵まれた地盤を有することもあるが、もともと少なめだ。ところが、人的災害の典型である火災件数は年によって増減がある。13年は、9月までの累計（825件）でほぼ前年並みに達しており、近年のピークである04年（1072件）に迫るほどだ。出火率（人口当たりの出火件数）も、低下傾向にあるとはいえ、全国平均と比べてなお高い。

◆ 火災発生原因

順位	県内	全国
1	放火（疑い含む）	
2	たき火	たばこ
3	たばこ	こんろ
4	こんろ	たき火
5	火入れ	ストーブ

（注）県内は 2011 年、全国は 12 年の調査結果
（出所）県、総務省消防庁

火災の発生原因は、全国同様、放火が第 1 位で、たき火やたばこなど当事者の不始末も上位に位置する。火災は人災との意識で、火気の取り扱いには十分な注意が必要だ。とくに、県内の冬は乾燥した冷たい「からっ風」が吹きすさぶので、なおさらだろう。

春の火災予防運動は、1989 年以降、消防記念日の 3 月 7 日を最終日とする 1 週間にわたり行われる。阪神淡路大震災と東日本大震災の発生日のはざまでの開催だ。両震災で火災による死傷者が少なくなかったことを考慮すると、冬から春にかけて火災への備えをよく点検することが大切だろう。

日本銀行前橋支店では、火災などによって損傷した現金の引き換えを行っている。該当する現金があれば、遠慮なく窓口を持ち込んでいただきたい。法令に定める基準に基づいて新しい現金と交換する。とはいえ、火災の減少とともに損傷した現金も減ることを願っている。

（ 日本銀行前橋支店長
相良 雅幸 ）